

11月12日(水)ロシアンメソッドピアノ研究会レポート

11月12日、松田先生のご自宅でもあるアトリエ・松田で、ロシアンメソッドの研究会が開かれました。少しずつ京都の底冷えが厳しくなってきた中、神戸などの遠方から足を運ばれた方も多く、暖房のきいた暖かなアトリエの中で研究会が始まりました。

今回は、松田先生が作曲されたテキスト「ピアノレッスン 1-a」と、「ピアノレッスン併用曲集1」に先生の手書きの細やかな指導のポイントが付記されたレジユメが配布されました。(受講された方の資料で、これだけ見て勝手な解釈をされては困るので、コピーは厳禁です！)

最初に、弾くときのたまごを持っているような手の形の指導法を教えてくださいました。希望者が前に出てひとりひとり細やかにチェックしていただきました。

また、鍵盤の上に指を置いて、「手の形」をまず確認し、その状態で力が抜けているかどうかを確認するため、先生のご指導のもと生徒役の受講者がピアノの鍵盤に手を置き、指導者役の受講者が脱力を確認しました。多くの方が席から立たれて、生徒役の方の脱力を実際に触れて確認をされるなど、アットホームな雰囲気です。講座が進んでいきました。

次に、1音ずつの練習が、生徒さんにとってより楽しいものとなるように、指導者の伴奏にのせてオクターブで1音ずつ弾く練習法(「～ロシアンメソッドに基づく～ピアノのためのちいさな練習曲集」から)も実践的に教えてくださいました。生徒さんの腕や手を持って1音を弾くサポートをする方法も教えてください、受講者全員が生徒役と指導者役に分かれて、お互いの脱力の加減や、サポートの仕方を「これでいいのかしら?」「脱力できてますね」など声をかけあいながら、和やかに学びました。

5度の重音程も、弾くときの手の形を細やかに教えてください、立ってピアノの近くで熱心に手の形を観察される方もいらっしゃいました。

先生の朗らかなお人柄と、音に対する真摯な姿勢が随所にちりばめられた研究会は、あっという間に時間が過ぎました。指先の感覚や、腕・肩の脱力を指導者自らが自分のものとし、教え伝えていくために、1度限りの受講で終わらずコンスタントに勉強の場を持ちたいという思いを持たれた方が多く、次回の研究会の日程をさっそく決めてそれぞれが帰途につきました。

松田先生、素敵な時間をありがとうございました！

(By 藤原千尋)